

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年6月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1570400505
法人名	社会福祉法人 報徳福祉会
事業所名	認知症高齢者グループホーム こころつくし
所在地	新潟県三条市西大崎2丁目4番10号 (電話) 0256-38-0093

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 4月 9日

【情報提供票より】(20年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 7人、非常勤 1人、常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階 建ての 2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	41,320 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 231 円	昼食 315 円	
	夕食 315 円	おやつ 157 円	
	または1日あたり 1,018 円		

(4) 利用者の概要 (20年 3月現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	3名	要介護2	3名
要介護3	1名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 82歳	最低 77歳	最高 90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みらら神経内科心療内科、 腔友会訪問部佐藤歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体となる法人は、保育園や児童館を運営しており、平成12年に三条市の要請を受けて、この地にデイサービスとグループホームを開設した。ホームは住宅地の中にあり、デイサービスの2階部分に併設されている。法人全体でケアの質の向上に取り組んでおり、職員は研修に積極的に参加できるようになっている。住宅地の中にあるため、近隣との交流は盛んであり、ボランティアや保育園児、近隣の住民の訪問は多い。利用者も近隣の方が増えており、デイサービス利用を経てホームに入居する方もおられ、地域とのつながりが深くなってきている。
利用者へのケアについては、生活歴等の細かいアセスメントを行ない、家族からの聞き取りも十分に行なって介護計画に反映している。日々の利用者の記録もパソコンを利用して細かく取られ、利用者の特徴を捉え、個々を尊重したケアが実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価を踏まえて、それぞれの改善項目に対して職員間で話し合いを行ない、改善を行なった。「権利・義務の明示」については、ホーム内に掲示し、周知している。「気軽に入れる玄関まわり等の配慮」については、2階にあるホームへの階段への案内板が設置されたり、飾りつけ等で入り口を分かりやすくしてあった。「入居者一人ひとりの尊重」については、利用者の呼び方等について職員間で話し合いが行われ改善されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、まず職員ごとに担当を決めて実施し、その結果をもとに職員全体で話し合いを行い評価をまとめ、サービスの振り返りに活用した。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの状況説明をしたり、地域に協力してもらいたいことなどが話し合われている。地域包括支援センターの職員のほか、市役所の担当者も参加しており、行政の動向や今後の方針などの情報も出され、行政との良い意見交換の場にもなっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族とは定期的に連絡を取っている。家族が面会に訪れた際にも時間を作って利用者の状況を伝え、家族からの意見等も積極的に聞いている。聞き取った意見は、部署会議等で職員全体で話し合い、運営に活かしている。家族の不安等についても、一緒に利用者をケアしている立場としてともに考え、同じ視点に立って解決策を考えるよう努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>住宅地の中にあり、1階がデイサービスということで、そこを利用する方々やボランティアなどとの交流が盛んである。また、畑のボランティアや自治会長が定期的に訪れてくれたり、施設の駐車場に移動図書館のバスが来るなどして人が集まる場所になっている。法人が保育園を運営していることから子どもとの交流も盛んであり、保育園を卒園した後も子ども達がホームを訪れてくれ、利用者との交流している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

↓ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「近隣との調和の中で尊厳や権利を損なわず、自主自律のある豊かな暮らしを提供する。」という理念を掲げ、それに基づいた目標も作成している。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基に年度の目標をたて、ホームの職員会議などで管理者と職員が話し合い、日々の実践につなげている。		
		家族や地域への理念の浸透			
2 - 2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	町内会の会議へ参加したり、地域版の広報誌を発行して近隣の町内会に回覧してグループホームの状況を伝えたり、家族会で地域の中で暮らしていく大切さを伝えている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加や、地域の祭りへの参加などを通して、地域の方と交流する機会を確保している。自治会長が月1回程度訪問してくれており、その際に近況報告などを行っている。また、施設の前の駐車場に市の移動図書館が来て、利用者や地域の方が一緒に利用しており、交流の場となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全体で行い、サービスの振り返りに活用している。外部評価の結果については運営推進会議で話し合いを行い、サービスの改善につなげている。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヵ月に1回開催し、ホームの現状や課題、地域の方からの意見等を話し合っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	三条市の呼びかけで行われている市内の3つのグループホームとの協議会に管理者が参加し、市役所担当者と情報交換や意見交換を行っている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員に対しては、入職時に管理者から話をしている。また、外部の研修会に参加したり、それをもとにホーム内で勉強会を開催するなどし、虐待に対する注意喚起している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に対して月1回定期的に手紙や電話で連絡を行っている。状態の変化があれば随時連絡している。また、写真を多く掲載したホームだより「ゆびきり」を発行し、家族に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が面会に来られたときには、職員と話す機会を作り、意見等を聞きとるよう努めている。家族が外部者に意見を言える仕組みとして、地域の方から第三者評価委員となって頂いている。出された意見は会議等で話し合い、運営に反映している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者も参加するデイサービスと合同の職員会議やホームの会議等で職員の意見を聞く機会を設けている。その後リーダー会議で検討後、運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階デイサービスとの間でのみ、職員の異動が行われる場合がある。グループホームとデイサービスとは普段から交流の機会を持ち、利用者と職員とが顔見知りの関係を作り、異動や離職によるダメージを軽減している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しに適宜行われている	各種のマニュアルが整備され、それに関する学習会等も適宜行われている。概ね3ヵ月ごとに見直しがされ、必要に応じ、最新版に差し替えられている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己チェック表を基に管理者が職員との面接を行なって個人の経験やレベル、意欲等を把握し、職員の希望も加味して、運営者と管理者で育成計画を立て、施設内外の研修への参加を促している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時や研修の受け入れ時などの同業者と交流する機会を活用し、他施設の良いところを学んだり、自施設の気づかないところを教えてもらったりするなど、情報交換を行っている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設全体として年に2回、グループホーム内では3ヶ月に1回以上、職員同士の食事会を開催し、コミュニケーションを図っている。管理者・職員とが話しやすい雰囲気があり、また、管理者も必要に応じて運営者とコミュニケーションを取ることができる。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が自宅等を訪問したり、入居希望者から見学やお茶のみに訪れてもらうなどして、職員や他の利用者と顔なじみになれるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理などの家事については、利用者からいろいろ教えてもらいながら一緒に行うようにしている。畑仕事、縫い物、掃除など、生活の場面場面で、利用者が主体性を発揮できるように、職員は環境を整えている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは出来るだけ話し合う機会を設けるようにして、介護に関する情報の共有化を行ったり、具合の悪いときはご家族に付き添ってもらったりなど、利用者とともに支えあう関係を作っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントを活用している。自分で書ける利用者からは書いてもらうなどし、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを活用して、利用者や家族から、ホーム入居に至る経緯や本人の生活歴等の情報を収集し、サービスにつなげるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントから読み取れることや利用者、家族の意見を反映させ、カンファレンスを開催して職員間で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3カ月毎に見直しを行い、6カ月毎に新たに作成している。状態が変化したときには、利用者や家族と話し合いを行い、カンファレンスを実施して、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて行きつけの理美容院へお連れしたり、散歩や買物なども利用者の状況や希望に合わせて行っている。1階にあるデイサービスのレクリエーションや行事に参加したりして、日常生活もバリエーションを広げるようにしている。近くの保育園児との交流を活発に行い、園児から手紙が届くなど、利用者の喜びになっているとともに、幼い頃からお年寄りとの交流する機会を確保することにより、大人になっても自然な交流ができるようにと考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関については利用者や家族の希望を優先し、馴染みのかかりつけ医にかかることもできる。協力病院からは月2回の往診があり、また、必要があれば職員が送迎を行なって受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは終末期のケアは行なえないことを入居の契約時に伝えていく。重度化した場合は、利用者や家族にとって一番良い支援が受けられるように、家族、医師、他の施設等と話し合いを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を大切にして、言葉かけやケアを行なっている。プライバシーポリシーを定め、個人情報外部に漏れないよう記録等の管理をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にして、個々の希望に沿った生活が送れるように支援している。馴染みの習慣を大切に、買物や散歩に行ったりしている。また、スカートが好きな女性にはスカートをはいてもらうなど、その人の好みを聞いて、その人に似合う服装ができるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑での野菜作りや買物、調理、盛り付け、片付けなど利用者の出来ることをしてもらっている。会話を楽しみながら職員も一緒に食べ、食事が楽しみなものになるように支援している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに合わせて下着選びやトイレ誘導を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の時間を入浴にあてているが、利用者の希望や状態に合わせて入浴が出来るように体制を整えている。また、気の合う人同士と一緒に入浴したり、入浴剤を入れたりして、入浴を楽しめる工夫をしている。数人で入浴できる大きなお風呂であり、温泉や銭湯気分が味わえると利用者には好評である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの特徴を把握し、その人に合わせた役割、楽しみごと、気晴らしを行えるように支援している。畑で農作物を栽培したり、近くお祭りへ行ったり、お昼の買出しに行ったり、調理をしたりと、それぞれのペースで過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は一人ひとりの希望や体力に合わせた外出を支援している。毎日のゴミ捨てなど日常的に外へ出掛ける機会を作っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルがあり、職員も身体拘束について理解して、身体拘束のないケアを行っている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は、鍵を掛けることによる閉塞感や不安感、地域の方や家族が入りにくくなることを理解しており、日中は鍵を掛けていない。ただし、構造上、1階のデイサービスが休みの日曜日に関しては、防犯のため1階の入り口は施錠しているが、利用者が外出する際には職員が付き添ったりして自由に外出することができる。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止についての勉強会を開催し、認知症高齢者に起こりやすい事故や対応方法を学んでいる。また、再発防止のために、事故報告やヒヤリハット報告を活用して話し合いも行っている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	職員全員が急変時や事故発生時の対応ができるように、救急救命講習を受けている。また、救急手当・初期対応のマニュアルもあり、定期的な勉強会もしている。		今後も、職員の不安を軽減し、緊急時にも慌てず確実に対応できるよう、デイサービス看護師の協力も得ながら繰り返し研修を重ねていくことを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年2回の避難訓練および総合訓練を行っている。訓練には地域の方にも参加を呼びかけ、利用者の状態や職員だけでは対応に限界があることも理解してもらっている。不審者情報をメールで知らせるサービスを三条市と契約したり、災害発生時に自動的に放送の入る災害用ラジオなど、有事の備えをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの摂取量や食習慣、嚥下や咀嚼状態を把握しており、それぞれの人に合わせた支援を行っている。メニューの栄養バランスに関しては、デイサービスの栄養士からチェックを受けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には、利用者が協働で作った壁画や保育園児からのプレゼントを飾ったりと季節感を取り入れた飾りつけをしている。家具や設備などは落ち着いた雰囲気のものである。窓が大きくベランダもあって、ホーム内は明るく、解放的な雰囲気である。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた好みのもに囲まれて生活する安心感について家族に説明し、理解と協力を得て、使い慣れた道具や家具を持ってきてもらい、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせる居室づくりをしている。</p>		